

新しい悦びの時代へ向けて

NPO法人

くだけけ会代表

和田重良

1948年小田原市生まれ
くだけけ生活舎での共同生活（人
生科や農作業）をとおして、青少
年や家庭の生活にさまざまなメッ
セージを送っている。



人生においても、教育を考えるためにも、一人一人にとって「今をどう生きるか」が大切なことであることは言うまでもありません。

過去を悔んで、また未来を憂いてばかりでは新しい時代を生み出せません。今日からイキイキと生きましょう。何歳からでも…。

矛七回 笑顔

34億年の生命の歴史

地球上に生命が誕生してから34億年

くらいたっているよ
ところは200万年くらいたっています。

うです。動物が誕生してから7億年、陸上動物が出
現したのが5億6千万年、哺乳類（ほくらはこの中
の一種）はわずか2億年の歴史だそうです。そして、

安にもなっています。

人類が獲得した最大のものは何と言ってもこの「大きな頭」でしょう。そこには「立腰」や「二足歩行」や「手の働き」などがからんでいるのでしょ
うが、時には大き過ぎるほどに「大きな頭」に進化
したはずなのにそれを進化と言えるのかどうか？
と疑いたくなるようなモノに出来上がっているの
です。設計ミスです。

神様の設計ミスと思われるモノは「自己中心的計
らい」で「しあわせともしあわせ」を取り違えてい
るところです。

顔に出るモノ

この「大きい頭」
の中身には「知」と
「情」と「意」とい

う分野があるそうです。

その中身がどういふふうになっているのかわかり
ませんが、「心」というものを表現できるように進
化したのですね。

心の表現としての顔や身体表情を得たのです。

顔に出るものは不安、焦り、怒り、ウソ、喜び、悦
び、信頼、感謝…とそのミックスなどと、とても複
雑に出ます。

まあたまにはオリコウそうな顔をして実はバカと
か、親切そうな顔をして実はアツカマシイとか、政
治家によくあり勝ちなゴマカシ上手というのもあり
ますが、それでもやっぱりその心の中身は分つてし
まうものですね。

子どもの事や将来のことや生活のことなどに悩み
や不安や心配や苦しみがあるとつい行き詰ってしま
います。行き詰りの人はたいてい「息が詰って」い
て呼吸が浅くなっています。笑うこともできなくな
っているのです。

反対に「笑う」と元気になる、健康によいという
ことも証明されているようです。大口開けて空気の
出入りがよくなるからでしょうかね。

いや、きっと笑うと肩の力が抜けるのです。

やわらかい心 やわらかい笑顔

心の表現としての
「笑顔」は「生命の
歴史34億年を背負っ

ている」と思うととても大切なことのように思いま
す。それなのになぜか人の「大きな頭」は悩みや不
安や焦りの方に捉われるようにできています。その
原因が「自己中心的計らい」というものです。

昔、わが家でも家内が病氣した時に五人の子ども

たちから「笑顔」が消えました。子どもたちの心は
固まってしまい柔らかなものは一つもなくなつてし
まいました。ただ黙々とケンカの一つもしないで家
事手伝いをしてくれたのです。

ほくの父（和田重正）がた
まにかねて色紙に「笑い、笑
い、笑い」と書いてくれました

た。ほくも家内の病状が不安
でしたから子どもたちには
「笑おうよ」と言ってみても

こちらの心がひきつっているのですからとても無理
なことでした。

一年もたった頃、家内の病状もだいぶよくなって
来て子どもたちの心もやわらかくなって来ました。
と同時に笑顔がよみがえってきました。

生活の中で笑顔になれるのは「あんしん」がある
からです。ほんとうに不思議なことです。やわらか
い心はやわらかい笑顔と連動しているのです。

「くだけけ会」ではできるだけ皆さんが「あんしん」
して人生をおくれるようにいろいろなことをしてい
ます。相談や定例会や合宿やいろいろとしています
が、できることなら明るい努力の道が拓かれていく
ように「あんしん」の本体をみんな求めてい
ます。

事務所のある「川の家」も農作業や宿泊のできる
「山の家」もいつもやわらかい笑顔にみちているよ
うに心掛けています。

